講演会型+学校行事参加型（小学校）

学 校 名 等	各務原市教育委員会青少年教育課（鵜沼第２小学校での例）
実 施 日 時	平成２６年１１月２１日（金）　１３：００～１５：００
会　　場	体育館と１年生教室
参 加 人 数	約５０名（鵜沼第２小学校に進学する予定の保護者）
学 習 テ ー マ	**もうすぐ１年生、小学校生活をのぞいてみませんか！**
運営者の願い	市内全小学校を会場にし、市内保育所（園）、幼稚園の「子育て広場（家庭教育学級）」として開催する。年長児をもつ保護者を対象に、スクールカウンセラー等を派遣し、入学前の児童期の特徴、問題事例やその対処法を学ぶ。また、１年生の授業参観を実施して、小学校教育を具体的に理解する。

学　習　の　内　容

＜講演会・・・１３：１０～＞

講話　：　「子どもを伸ばす幼児期の子育て」
講師　：　特別支援教育士スーパーバイザー
五島君子　先生

※　会場は小学校だったが、会場準備、受付・司会等は、主催団体である、各保育所(園)・幼稚園の家庭教育学級長等が、役割分担をして務めた。
　また、質疑の時間も設けられ、疑問に丁寧に答えていた。市教委の担当者が、事前に把握した質問事項について説明する時間も確保されていた。

感　想

- 小学校までに子どもとどのように過ごしたらいいのか考え直そうと思った。
- 「自分が好き」と言える子に育ってほしいと思った。「待つ」子育てをしていきたい。
- 「待てる母」「工夫する母」「ほめることのできる母」など、「母」として考えさせられた。
- 「叱りっぱなし」「比べてしまう」ことを繰り返していた。日々、気をつけたい。
- その子なりの成長を見守っていかなければいけないのだと改めて思った。

＜授業参観（１年生）・・・１４：１０～＞

１年生４クラスすべての授業を参観できた。国語や算数、音楽などの授業に落ち着いて参加している１年生の児童の姿、また、いろいろな取組の分かる、各教室の掲示物は、小学校教育を具体的に理解できる素材を十分に提供できていた。

感　想

- 堂々と発表したり、静かに集中できたりしていた。入学するまでに身に付けさせたいことを具体的に考えることができた。
- 子ども達が落ち着いて先生の方を見て授業を受けていた。わが子もちゃんとできるか心配はあるが、１年生になるのが楽しみになった。
- 先生の話に集中し、正しい姿勢で話を聞く姿に驚いた。来年は、そうなりたい。
- 想像していたより、明るく楽しそうで安心した。

＜「円滑な接続」に新たな視点＞

「小１プロブレム」の問題がクローズアップされて以後、子ども達や教職員間の交流が盛んに行われるようになっている。この問題を「家庭教育」との関わりでとらえ、年長児の保護者自身の「学びの必要性」を提起したものとして、価値ある取組である。

＜幼保役員で運営＞

年長児の保護者自身が、主体的な「学び」を求めることが必要である。
　会場は、小学校であっても、準備や運営は、幼保の家庭教育学級委員が行うことを貫いている。

＜小学校の協力＞

市内全ての小学校で、同様の家庭教育学級を開催することで、市内全ての年長の園児が参加できるよう体制が整えられている。